

競技規則並びに競技上の注意

1 競技規則

- (1) 本大会は、令和4年度(公財)日本ハンドボール協会競技規則及び本大会の申し合わせ事項で行う。
- (2) 本大会の「感染拡大防止ガイドライン」に則り、競技運営を行う。
- (3) 競技時間については、男女とも25分-10分-25分、タイムアウト前後半3回とする。
 - ①規定の時間内で勝敗が決しない場合、1～3回戦までは後半終了後、7mTC(5名)を行う。
 - ②準決勝は第1延長、決勝は第2延長まで行う。それでも決しない場合は7mTC(5名)を行う。
 - ③試合間は25分とする。なお、7mTC等で試合終了が遅延した場合でも、次の試合は競技日程どおりオンタイムでのスローオフとなる。ただし、大幅に遅延した場合は協議の上、調整する場合がある。
- (4) 競技会場、試合球は次の通りとする。
 - ①試合球は男子2号球、女子1号球とし、(公財)日本ハンドボール協会検定球を使用する。
モルテン(d60シリーズ)を使用する。
 - ②競技会場について

日付	回戦	会場・広さ	使用ボール
8月5日(金)	男子1・2回戦/女子1回戦	A・B・Cコート (38m×20m)	モルテンd60 女子=1号球 男子=2号球
8月6日(土)	男子3回戦/女子2・3回戦		
8月7日(日)	男女準決勝/男女決勝		

- ③アップ会場について
 - ・サブアリーナ：詳細は会場の諸注意にて確認すること
 - ・メインフロア：前の試合のハーフタイム時に、試合コートにて9分間のアップを認める。
第1試合のチームにおいては入場後、すぐに試合コートでのアップを認める。

2 競技上の諸注意

《重要事項》感染拡大防止対策に則り、チーム責任者(監督)は以下についてチームに周知し徹底を図る。

【監督会議での確認】

- (1) アイマスク・コルセット・プロテクター等を身につけたい場合
 - ①日本ハンドボール協会が定める「服装や保護を目的とした装具に関する規定」に準ずる。
 - ②装具は監督会議に持参し、会議終了後、競技委員長の確認を受ける。
 - ③競技時のコルセットは、ユニフォームの中に入れる。
- (2) 各チームのトレーナー帯同について
 - ①監督会議前の受付でトレーナー帯同申請書を提出し、競技委員長の許可を得た者に限る。
 - ②トレーナー席での写真や動画撮影は禁止とし、IDカードをつけてベンチ後方の席に座る。
- (3) 技術的機器について
 - ①日本ハンドボール協会が定める「交代地域に持ち込み可能な技術的機器に関するガイドライン」に準ずる。
- (4) 新競技規則に関しては顔面に関する内容のみ適用とし、それ以外は令和4年度競技規則に則る。
- (5) 選手、チーム役員の変更について
 - ①事前にメール等で選手変更を申し出た者に限る。選手等変更一覧は監督会議にて配付する。
 - ②監督会議にて選手等変更一覧の最終確認を行い、競技委員長が承認した者に限る。
- (6) 競技に関する申し合わせ事項について
 - ①感染拡大状況や施設からの会場使用等の変更案内により、競技に関する事項が変更する場合がある。
変更等がある場合は、監督会議にて競技及び審判部長、開催事務局等より連絡をする。

【試合前の確認】

(1) トス、ユニフォームおよび登録証の確認について

- ①第1試合は試合開始30分前、第2試合以降は前の試合の前半終了直後に、オフィシャル席にて行う。
- ②代表者はCP/GK登録ユニフォームを持参し、審判員・テクニカルデレゲート(以下TD)の許可を得る。
- ③ベンチ入りする選手とチーム役員の登録証(トレーナーを除く)を持参し、TDに提出する。
- ④プログラム及び恋式記録用紙を使用するので、メンバー表の提出は必要としない。
- ⑤トレーナーをチームベンチに入れる場合は、その旨を審判、TDおよび相手監督に申し出ること。

(2) 選手の服装等について

- ①ユニフォームの外にアンダーウェアが出るようであれば、ユニフォームの基調色と同色でなければならない。着用しない選手にあってはその限りではない。また、基調色以外にユニフォームに使用されている色のアンダーウェアの着用が認められる。その場合、試合前に認められたチームで統一された色でなければならない。
- ②ソックスの色は、チームで統一すること(メーカーのロゴは問わない)。
- ③ハチマキは結び目より先を短くし、長い髪は危険のないように結ぶこと。
- ④両面テープ、松ヤニ及び松ヤニスプレーの持ち込み及び使用は認めない。なお、違反した場合は、完全に除去されたことが確認されるまで競技に参加できない。
- ⑤金属・プラスチック製のピンは使用できない。また、プロミスリングは、外すかテーピング等で覆う。
- ⑥爪は相手に傷をつける要因となるため、きちんと切っておくこと。

(3) チーム役員の服装等について

- ①服装の上着の色は、相手チームのユニフォームと同色のものは着用できない。コイントス時に相手のユニフォームの色を確認し、同色の場合は試合開始前までに対応すること。
- ②試合中の言動は指導者として節度あるものとなるようにする。

【試合開始前の確認】

(1) ベンチの人数等について

- ①監督1名・役員3名及び選手16名の20名以内とする。
- ②チーム責任者は役員表示「A」、その他の役員は役員表示「B」～「D」をつけなければならない。
チーム役員A～Dの役員証やトレーナー役員証は、監督会議にて配布したADカードと兼ねる。
- ③チーム責任者だけがタイムキーパー・スコアラー・TD、可能であればレフェリーと話することができる。
- ④トレーナーがいる場合は、トレーナー席に入ることを認める。ADカードを着用する。
なお、競技中に選手を処置する際は、ベンチ席後方またはトレーナー席にて対処する。
- ⑤ベンチ幅は椅子の間隔を保つため、主催者が定めた競技規則外の幅で設置する。

(2) 公式記録用紙について

- ①試合開始前、監督(役員A)はオフィシャル席に行き、公式記録用に記載されている選手16名以内とチーム役員4名以内を確認しサインをする。なお、16名を超える選手登録をしている場合は、ベンチに入らない選手の該当氏名に朱書きで取り消し線を引くこと。
- ②感染拡大防止対策として、各自で筆記用具の準備をお願いする。
- ③試合終了後にレフェリー・TDが記録用紙を確認して、サインすることによって公式記録が成立する。

(3) 試合中の個人の荷物管理について

- ①ベンチでは各自、荷物入れ(大会記念品ポリ袋等)を持参し、個人の荷物管理をする。
- ②マスクやタオルは使用するときに出し、使用後はしまうこと。

ただし、頻繁に使用する場合は一定の場所に置いておき、他の選手に管理させないこと。

(4) 公示時計(加算式)を使用し、タイムアウトはホーンで、試合終了の合図もホーンで行う。

ただし、ブザーが聞こえにくい場合は、TDの笛の合図で対応する。

(5) 電光掲示板について

- ①チーム表示は、トーナメント若番が左側で表示となる。そのため、前後半で左右の表示を入れ替えない。
- ②退場者の再入場については、公示時計及び退場者タイマーを見て行う。

電光掲示板の故障等により電光掲示ができない場合は、オフィシャル席に再入場時間を掲示する。

(6) タイムアウトカードについて

- ①ジャッジテーブル席横の座席に設置してある。そのため、チームベンチにカードを置かないこととする。
- ②タイムアウトを取る場合は、コーチングゾーンを出て番号を間違えないようにタイムアウトカードを取りジャッジテーブルに置く。なお、コーチングゾーンを出てたら、カードを手にしてすみやかに置くこと。
- ④チームタイムアウトは請求カードをオフィシャル席に届いた時点で認める。

【競技中の確認】

(1) ベンチでの集合時においても、できるだけ密集・接触を避ける。また、競技中に靴底を手で触らない。

競技前後は、速やかに感染対策グッズで配付した消毒スプレーを使用して手指消毒を行うこと。

(2) 試合の入退場時について

- ①入場はサイドラインから中央に向かって一斉に入場し、審判の指示に従いあいさつをする。
- ②試合終了後、互いの選手同士やチーム役員同士、審判・TD等との握手は行わず互いに挨拶のみとする。
- ③試合終了後、チームキャプテンのみが相手ベンチ前やオフィシャル席前まで移動して挨拶をする。

他の選手は挨拶後、速やかにベンチに移動し、荷物移動の準備をすること。

(3) 競技前に密集・密着をしながら、大きな声で発生する円陣は禁止する。そのため、円陣を組む場合は、声を出さない円陣や距離を取っての声出しなど、感染防止の工夫をすること。

(4) チーム役員（トレーナー含む）およびベンチで控えている選手は常時マスクを着用する。

ただし、常時立位して指示を出す監督や頻繁に交代する選手はその限りではない。

(5) 交代地域のコーチングゾーン規定について

- ①各種の指示をするために1名が立つことが許される。
- ②センターラインから3.5mの位置を始点とし、センターラインから10mを終端とする。

(6) 選手がベンチから常時指示を出したり、一斉に合わせて応援したりすることは禁止とする。

ただし、動作や拍手は構わない。また、突発的な発声（得点や終了時等）は仕方がないとする。

(7) 試合に途中出場するためのアップについて（準決勝・決勝を除く）

- ①ベンチ席横のゴールライン手前4m程度のみとし、ボールを使用することはできない。会場の都合上、ベンチ周辺にアップ場所を確保できないため試合等の支障がない程度でアップを行うこと。
- ②コートに入場する前までは、マスクの着用をすること。

(8) 給水について

- ①試合前後・競技中・ハーフタイム・チームタイムアウト時の給水は、コートの外で行うこと。
- ②床が濡れた場合は速やかに雑巾できれいに拭き取ること。（感染対策グッズに入っています）
- ③キャップタイプの水筒、スクイズボトル、ペットボトル等で蓋の付いたものを使用すること。

(9) ハーフタイム中について

- ①すべての選手・役員はマスクを着用すること。
- ②直前まで競技を行っていた選手のみ、熱中症等の観点から呼吸を整えてからマスクを着用してもよい。
ただし、チーム責任者が熱中症等の危険があると判断した場合は、着用しなくてもよい。
- ③荷物を速やかに移動してから給水等を行うこと。なお、給水する水筒等は共用しないこと。

(10) 試合終了後について

- ①ベンチの荷物を速やかに撤収し、ごみを拾い、濡れた場所をきれいに拭いておく。
- ②チーム責任者は、選手やチーム役員に手洗いうがい、手指消毒を徹底させること。
- ③メインフロアから退場するときは、選手・チーム役員は必ずマスクを着用すること。